共通テスト「公共，政治・経済」に向けて
―公民科の現状分析と本格的な学習準備―

大阪府立大手前高等学校教諭
吉田　英文

１．はじめに

2025年１月より新教育課程（新課程）による大学入学共通テストが始まり，公民の出題科目は，「公共，倫理」「公共，政治・経済（政経）」「地理総合／歴史総合／公共」の３科目になる。旧課程にあった「倫理，政治・経済（政経）」と「現代社会」はなくなり，「倫理」が「公共，倫理」に「政治・経済」が「公共，政経」となった。

旧課程の出題科目	新課程の出題科目
「現代社会」	
「倫理」	「公共，倫理」
「政治・経済」	「公共，政経」
「倫理，政経」	
	「地理総合／歴史総合／公共」

必履修科目のみを組み合わせた「地理総合／歴史総合／公共」は，受験科目として認めない大学があるなど，旧課程の地理歴史科のＡ科目のような制約があるので，「公共，倫理」か「公共，政経」の選択が一般的となる。

さらに，旧課程の出題科目にあった「倫理，政経」が新課程では出題されなくなったので，「倫理」が開講されない高校も出てきている。また，私立大学の文系学部の入試科目において，「政治・経済」や「現代社会」が設定されている大学があったが，「倫理」はほとんど設定されていなかった。このような状況から，公民科では，「公共，政経」が共通テストで最も多く選択されると考えられる。

２．公民科の科目選択と受験者数の動向

次の表は，旧課程最後の試験となった2024年度共通テストにおける，公民科の本試験の受験者数と平均点，追試も含めた科目選択率（各科目受験者数／公民延受験者数×100）を示したものである。

旧課程の「現代社会」は，倫理分野からの出題が少なく「公共，政経」のイメージに最も近いので，「現代社会」で受験していたグループはそのほとんどが「公共，政経」を選択すると考えられる。「倫理，政経」で受験していたグループも学習分野と領域の関係からその多くが「公共，政経」を選択すると考えられる。「政治・経済」で受験していたグループはすべてが「公共，政経」を選択すると考えられる。公民科の受験生の80％で「公共，政経」が選択されると仮定した場合，その受験者は「歴史総合，日本史探究」や「地理総合，地理探究」とほぼ同じぐらいの人数になることが予想される。

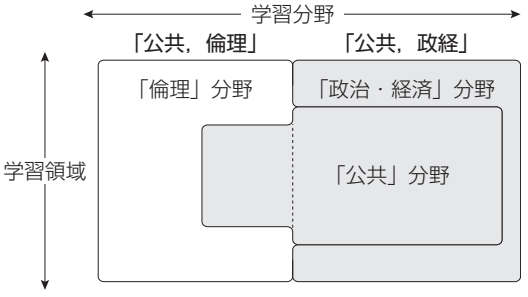
科目名	受験者数	平均点	科目選択率
現代社会	71,988	55.94	41.5％
倫　　理	18,199	56.44	10.5％
政治・経済	39,482	44.35	22.7％
倫理，政経	43,939	61.26	25.3％

（大学入試センター「令和６年度大学入学共通テスト実施結果の概要」により作成）

このような傾向はすでに現れており，大手予備校が2024年に実施した２年生対象の模擬試験においては，「政経」の受験人数が「日本史」や「地理」と同じぐらいまで増加しているようだ。

なお，2024年度の共通テストでは，「現代社会」「倫理」「倫理，政経」の平均点は，60±５の範囲に収まったが，「政治・経済」の平均点（44.35）は，低かった昨年（50.96）よりもさらに6.61点低下して過去最低となった。得点調整の対象とはならないが，地理歴史科の「地理Ｂ」の平均点（65.74）とは20点以上の差が生じた。多くの受験者が選択するであろう「公共，政経」の共通テストでは，このような平均点の格差が生じることがないように願いたい。

３．「公共」「倫理」「政治・経済」の学習分野と領域



（筆者作成）

「倫理」と「政治・経済」を比べると，学習分野は「政治・経済」の方が時事的な問題もあってやや幅広いといえる。

しかし，「公共」の学習分野のうち，7割以上は「政治・経済」の内容と重なっている。「政治・経済」のほとんどの分野は，「公共」ですでに学習されているので，「政治・経済」では，すでに学習した内容をさらに掘り下げて学習することになる。結果的には，「公共」をしっかりと学習していれば，「政治・経済」には取り組みやすくなるはずである。これに対して，「倫理」と「公共」との内容の重なりはあまり多くはなく，「倫理」には「公共」では学習しなかった分野がかなりあるので注意が必要である。

また，共通テストの出題分野は次表のようになる。

「公共，政経」	「政治・経済」＋「公共」の30%
「公共，倫理」	「倫理」＋「公共」の70%

（筆者想定）

「公共，倫理」を選択した場合には，公共の70%を占める政治･経済分野の学習が必要となる。「公共」分野の配点は，1/4程度であるが，この政治・経済分野の学習はやや負担となり，最大で20点程度が出題される可能性もある。一方，「公共，政経」を選択した場合には，公共の内容の30%を占めると想定される倫理分野の学習が必要となるが，倫理分野からの出題は，2022年公表の試作問題では10点程度であったので，負担は小さい。

４．「令和７年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」（大学入試センター）より

「公共」には，「基礎的・基本的な概念や理論，考え方等を活用し，文章や資料を的確に読み解きながら考察する力を求める。問題の作成に当たっては，現実社会の諸課題について理解したり考察したりするために必要な概念や知識に関わる問題，多様な資料を用いて考察する問題などを含めて検討する。」とある（※下線は筆者による。以下同）。

「政治・経済」には，「「公共」での学習などを踏まえ，「政治・経済」の学習によって深められた理解を基に政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては，各種統計などの多様な資料，様々な立場に立って話し合う場面等から必要な情報を読み取り，考察する問題などを含めて検討する。」とある。

このような新課程を意識した問題作成については，現行の共通テストで，すでに先取りする形で実施されてきている。旧センター試験に比べて共通テストでは，問題数は減少しているが，ページ数が大幅に増加しており，さまざまな資料や図表などが多用されるようになっている。

５．共通テストに向けての本格的な学習のスタート

このような状況で「政治・経済」の本格的な学習がスタートするが，まずは，「基礎的・基本的な概念や理論」の定着をめざしたい。数研出版の『政治・経済』では，かなりの知識量が確保されている。例えば，政治分野において，共通テストでもよく出題されるようになった判例が多数取り上げられている。また「公共」と同様，国内政治→国内経済→国際政治と国際経済の順に配列されており，まずは国内分野からの定着が可能である。なお，私は本格的に政経を指導するようになってからは，一貫して政治→経済→国際経済→国際政治の順序で学習を進めてきた。

６．地理歴史科の「歴史総合」や「地理総合」との連携

「歴史総合」のカリキュラムは，A 歴史の扉，B 近代化と私たち，C 国際秩序の変化や大衆化と私たち，D グローバル化と私たち，となっており，主に近現代の歴史を扱っている。

「地理総合」のカリキュラムは，A 地図や地理情報システムで捉える現代世界，B 国際理解と国際協力，C 持続可能な地域づくりと私たち，となっている。

いずれの科目も「公共，政経」を学習する上では，非常に有効であり，１年次に「歴史総合」と「地理総合」，２年次に「公共」，３年次に「政治・経済」というカリキュラムは，もしかしたら理想的なのかもしれない（※本校でも，2025年度より，「公共」は１年次から２年次履修に変更）。

７．本校における「公民科」学習の新たな取り組み

「公共」や「政治・経済」のような科目では，どうしても，担当教員によって教え方に個性が出る傾向にある。そこで本校では，今年度から複数の教員でそれぞれの科目を指導することにした。具体的には，「公共」は，「公共倫理」「公共政経」「公共課題」に３分割して３人の教員で担当する。同じように，「政治・経済」も３分割して３人の教員で担当する。このような体制を組むことによって，全分野を網羅的に学習することができる。